～(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告～

環境による教育と今後の評価

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　安家 周一

先日、ある会議で知り合いの方からこのような質問を受けました。「ECEQ®のコーディネーター養成講座を受けている中で、他園のECEQ®のSTEP4の公開保育を2園参加したけれども、２園とも自由保育だった。自園は設定保育なので、コーディネーター資格の必須条件である自園の保育を公開することは難しいのではないか」というものでした。このような理解は結構広範にわたっているようで、あまり問題にされることはないように思います。

幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に定められている総則などにも、一斉保育、設定保育はダメで、自由保育でなければならないなどの記載はありません。基本的に『幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な教育で、目的を達成するために、幼児の特性を踏まえ、環境を通して行うもの』と大括りで定められています。結論から言うと、目的を達成するために一斉に取り組む保育であっても、自由に子どもが選ぶ保育であっても、子どもの興味や関心が集まるような環境を整え､能動的にヒト、モノ、コトに関わりながら豊かな生活と遊びが保障されることが望ましいと言えます。したがって、同じことを同じようにすることが強すぎることは、一人ひとりの興味関心がないがしろにされる危険性を含むことになります。

私の園は、特別な日を除いて、朝登園してから身支度を整え、誰とどこで何して遊ぶかは子どもが決めることを基本とした保育の組み立てとなっています。たまに保育関係の見学者がおいでになられますが、「貴園は自由保育ですね」と尋ねられます｡私が｢当園は設定保育です｣とお答えするとキョトンとした顔をなさいます。誰とどこで何して遊ぶかを自分で決めるということは、子どもの興味関心がどのように働き、環境の構成はどうあればいいのかを仮説として設定し、保育室内や廊下、園庭などの環境を工夫する実験力が保育者側に問われているのです。当園も遠足などに行きます。みんな一緒にバスに乗り、山に出かけ栗拾いを楽しむこともありました。これは一斉保育にあたると思います。事前にイガから栗を取り出し山に撒き、園児たちが拾いやすいように設定します｡イガの中に栗があることも知ってほしいのですが、子どもが取り出すには少々の危険や困難もあってそのような配慮がなされます。また、転んで膝などにイガが当たると危険なので、大方は取り除き安全性を考える設定を行います。そのような設定の中で一斉に栗拾いが始まります。普通は栗を拾うことが狙いになりますが、一生懸命袋いっぱい栗を拾う子どももちろんいますが、虫好きの子どもは袋に一杯コオロギやバッタを入れていることもあるのです。ねらいをもって一斉に保育を展開しても、子どもによってねらいや内容は変化し、獲得される資質や能力、知識や技能は一人ひとり別々なのです。学んだ内容が個々に違うので、個々の学びの違いを検証し、保護者と共有することも私たちの大切な作業となります。

保育者養成校などで、設定保育・一斉保育と自由保育などの概念をどのように学んでいるのか定かではありませんが、免許･資格をもって卒業してくる専門職の人も、その概念があいまいでバラバラなように思いますし、園長ですらそのあたりをはっきり説明できない人がいるのかもしれません。これは大変困ったことで、幼児教育の特性の理解が当事者である教職員に理解されずに保育が展開されていることを意味し、2020年に大きく転換期を迎えた令和の日本型学校教育の目指す、「一人一人の発達や能力はそれぞれ違っていて、個別最適な教育環境を整える」という考え方や資質/能力と知識/技能に加えて、それを社会の中でどのように発揮することができるのかという方向性もあいまいになることを意味します。

私たちは私立（プライベート）の園です。しかし、勝手気ままにどんな教育でもいいわけではなく、多くの公金が投入されている公共（パブリック）の施設でもあります。法律である要領や指針の理念をよく読み込み、それぞれの園が地域や園児の特性に合わせて、魅力的で自由性が大切にされる園を全教職員協働で創造しなければなりません。そのリーダーは言わずもがな、各園の設置者・園長です。

自園を近隣の園や小学校などにも公開し、園の考え方を伝え合い、協議することによってその園の保育が磨かれ、公共に近づく過程に導かれます。

ここがポイント

本気の遊びを育てれば、それでいい

島根大学　理事・副学長／肥後 功一

子どもの人生にとって、幼児期に本当に必要な経験とは何でしょう。将来、子どもが行き詰まった時、明日の自分を信じられなくなった時、出逢うべきものを真剣に探し求める時、新たな何かに挑戦しようと自分なりの一歩を踏み出そうとする時……まるで植物が必要な水と養分を求めて地中に根を伸ばすように、その手を伸ばした先に甦る確かな体験の記憶。幼児期の経験とは、植物にとっての元肥のように、地中深いところにそっと置いてあって、すぐには効いてこない、しかし生きていく上で、いよいよ開花・結実に向かおうとする時に、あるいは日照りや強風に見舞われたピンチの時に、生命の糧となって子どもに必要なエネルギーを与えてくれる、そのようなものではないでしょうか。そんな幼児期の経験の核となる「本気で遊ぶ姿」を求めて、私は子どもたちの暮らす場に通っています。

（1）本気の遊びは“始原の姿”を引き出す

みなさん、竹の根っこって見たことありますか？私も筍を掘ったことはありますが、その根っことなると記憶があやふやです。先日、ある園の年長さんと一緒に山に遊びに行った時のこと。どういうわけか数人の子どもが、筍が伸び切って若竹となったものの根元を、持ってきたスコップで掘り始めたのです（写真１）。黙々と、ただひたすら小さなスコップで掘っていくその姿に、太古の祖先に出会ったような不思議な感覚を抱きました。子どもがことばも無くして熱中して遊んでいる時、そこには何らかの「始原の姿」が映し出されています。掘る、流す、転がす、跡を付ける、削る、ひたすら塗る、貯める、ひっくり返す、よじ登る、追いかける……なにかの拍子に封じられていた“本能”のスイッチが入ることで出現する、そんな本気で遊ぶ姿には、こちらがハッとするような真剣さが含まれています（ただ残念なことにそのスイッチは、多くの場合、丁寧に用意された指導案の外にあったりするのですが）。

（2）本気の遊びは暮らしとつながる

彼らはその竹を根っこの深いところから切り、山を下ったところにある園に持ち帰りたいと言い出しました。小さなスコップではもちろん歯が立ちません。さあどうする？ということで、6月の間、年長18人は何度も園と山とを往復して、その方法を考え続けました。そして（祖先が欲するもののために必要な“道具”を発明したように）口々にいろいろな道具のことを言い始めました。家に木を切るための何かがある、おじいさんが使っているのを見た……などなど。じゃあ家から持って来る？いやいや園にもあるんじゃない？となり、「園という大きなお家」の捜索が始まりました。彼らは園全体を暮らしの場として捉え直し始めたのでした。

子どもたちは遊びの中でだけ育つわけではありません。暮らしという大きな体験全体の中に遊びもあるのだということを、そして「暮らしと遊びとが絡み合いながら学びを支えていく力になる」のだということを、子どもの本気の遊びは思い出させてくれます。筍や竹というものを深く経験した彼らのひとりが描いた絵を載せておきます（写真２）。しっかりとした観察や楽しそうな様子に加え、真剣に遊んだ筍への愛が感じられる絵です。

（写真1）

（写真2）

短期連載 3　幼保小接続のための相互理解に向けて

お互いの教育を理解し、見通しを持った接続期教育の実現に向けて

奈良教育大学学校教育講座　教授／廣瀬 聡弥

前号（6月号）では、幼児教育と小学校教育の違いについて述べました。そこで、保育者と小学校教師がお互いの教育を理解し、接続期の教育を考えることが大切です。それでは、どのように進めれば良いのでしょうか。

文部科学省が、令和4年に「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」を示しました。詳細は、ホームページをご覧ください。手引きには、図に示すように、

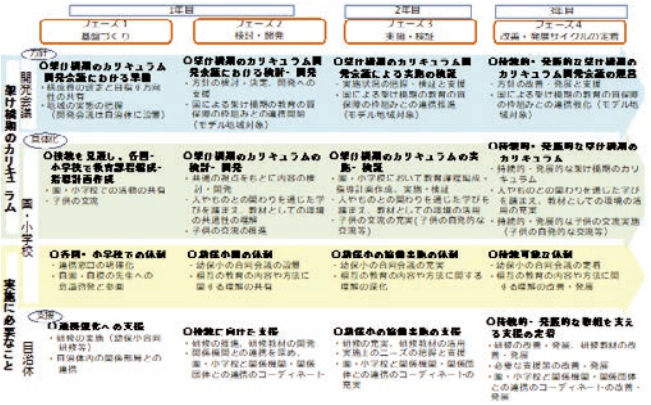

図　架け橋プログラムの進め方のイメージ（注1）
基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。

カリキュラム開発会議（幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、教育委員会、子育て担当部局、大学や専門学校、保護者や地域の関係者等で構成）、園や小学校、自治体という3つの体制ごとに、4つのフェーズが示されています。まずは、地域や園の現在のフェーズを確認し課題を捉えること、そして、今後のプロセスを見通すことが大切です。開発会議や自治体の取り組みは園単独ではできませんので、図の園・小学校と記載されている部分をご覧ください。架け橋期のカリキュラムとして、フェーズ1は「園長・校長及び担任間での関係づくりをしながら、園・小学校での子どもの生活の流れや活動について共有したうえで、各園、各小学校で教育課程編成・指導計画作成をしているか」「幼保小間での子どもの交流をしているか」、フェーズ2は「2年間を対象とした架け橋期のカリキュラムがあり、幼保小の共通の視点があるか」「教材としての環境の共通理解があるか」「事前・事後打合せ等、幼児と児童の双方に学びがある交流を工夫しているか」・・・のようにフェーズ4まで示され、これらの内容が判断材料になります。

私が園や小学校の先生と関わる中で、多くはフェーズ1の状態にあると思われます。フェーズには様々な要素があるのですが、その中で、「幼保小間での交流」、「幼保小の共通の視点」、「教材としての環境の共通理解」が園として実施して頂きやすく、最も大切と考えています。特に、“共通”という文言が多く用いられていることから、まずは交流し、お互いを理解することから始まります。保育者と小学校教師を対象に、実践場面でよく用いる語が持つイメージについて調べた興味深い研究があります（注2）。例えば、「教師中心」という語では、保育者が“押し付け”や“教師のペース、思いが強い”と見なすことが多いのに対し、小学校教師は“指導”と見なすことが多いというように、保育や授業を行ううえで用いられる同一の語であっても両者の捉え方が異なります。

交流する際、保育や授業場面のビデオやエピソードなどを共有しながら語り合って頂きたいです。この写真は、

私が長く関わっている保育者や小学校教師等の研究会の様子です。例えば、小学校教師にとって当たり前のことでも、保育者にとっては新鮮な場合が多々あります。一方で、幼稚園教育要領に「幼児期の教育は、（中略）環境を通して行うものである」と記載されているように、幼児教育では環境構成を大切にしています。幼児教育における環境の使い方は、小学校教師が授業実践するうえで非常に参考になると思います。

さらには、平成29年に公示された幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、学校種や施設類型を越えて子どもの成長を支える手掛かりが共通に整理されました。“10の姿”があるのですが、是非とも活用しながら話し合って頂きたいです。例えば、保育中の子どもの遊びの中に「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「思考力の芽生え」があり、小学校の国語の授業の中に「数量・図形，文字等への関心・感覚」や「言葉による伝え合い」だけではなく「自立心」「協同性」「社会生活との関わり」があるなど、子どもの様々な学びに気付きます。そのことを共に確認して欲しいと思います。

令和3年の中央教育審議会において、「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」が取りまとめられました。今後、接続期の教育だけではなく、個別最適な学びや協働的な学びの実現のためにも、園と小学校がお互いの教育を理解し活かすことが求められると考えています。

引用・参考文献
注1：文部科学省（2023）「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf
注2：野口隆子・鈴木正敏・門田理世・芦田宏・秋田喜代美・小田豊（2007）「教師の語りに用いられる語のイメージに関する研究 －幼稚園・小学校比較による分析－」教育心理学研究, 55, 457-468.

「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の改訂にあたって

「私立幼稚園・認定こども園の保育者として大切にしたい理念・哲学」及び「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」の作成について

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構　副理事長／宮下友美恵

当機構では平成18 年（2006年）に「保育者としての資質向上研修俯瞰図」を開発し、当機構や各都道府県の私立幼稚園団体が主催する研修会の内容を整理・体系化してきました。その後、時代の変化とともに研修俯瞰図の改訂を重ねてきましたが、最新の幼児教育の課題に対応した研修俯瞰図の改訂が必要になってきたことから、昨年度ワーキングチームを立ち上げ、文部科学省委託事業として、研修俯瞰図の改訂を行いました。

今回、ワーキングチームでの議論の中で、特に重要であると認識されたことが２つあります。一つ目は、私立幼稚園・認定こども園として、どのような時代にあっても受け継がれていくべき幼児教育・保育に対する本質的な考え方や、保育の質を高めるための「学び」に対する向き合い方について「理念・哲学」を示すこと。二つ目は保育者自身がそれぞれのキャリアステージに沿って、どのような資質能力を身に付けていきたいのかを考えるための指標のモデル「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」を新たに作成することです。その二つの内容についてを紹介させていただきます。

●私立幼稚園・認定こども園の保育者として大切にしたい理念・哲学

乳幼児期に過ごした環境が、その後の人生にどれほど大きな意味を持つかということは、幼児教育・保育関係者ならば誰もが納得するところです。『幼稚園教育要領』前文に明記されているように、「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育んでいくこと」は、私たちの大切な役割です。だからこそ、自園の教育･保育の内容や方法、そして子どもへの関わり方も含めたさまざまな環境が、乳幼児にとって本当にふさわしい「遊び」を中心としたものであるかということを、常に園全体で学びながら問い続ける園文化を醸成することが必要であり、園のトップリーダーである園長には特に強く求められています。

子どもたちは、AIに代表される目覚ましい進化を遂げるテクノロジー社会を生き、その担い手となっていきます。予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代を、生きがいを感じながら、多様な人々と協働して豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための基礎を培うことが幼児教育・保育には求められているのです。このような生涯に渡る人格形成の基礎を培う担い手としての幼児教育・保育の重要性を広く社会に認知してもらえるように、発言・発信し続けることは、私たち私立幼稚園関係者の大きな役割であり使命なのです。そしてその声を少しでも広く遠くまで届けるためには、私たち自身が幼児教育・保育のプロとして日々の研鑽を積むことが非常に重要です。

保育者として日々現場で子どもたちや保護者と向き合いながら､さまざまな業務を行う中で学び続けることは、決して容易なことではありません。しかしながら、保育者にとって、学び続けるという姿勢こそが、自園や自らの保育の質を更に高め、子どもたちの豊かな経験や育ちを支える唯一無二の道のりなのです。経験を問わず、いくつになっても学び続けようとする姿勢を持つこと、もっと知りたいという意欲を持ち続けることは人として本当に豊かな生き方です。そのためにも、仕方なく形式的に研修に参加するのではなく、本来の学びは主体的なものであることを忘れず、新しいことや疑問などに出会うことを楽しむ「好奇心」や「探究心」を大切にしながら、日々を過ごしたいものです。

経験を積むことで、出来ることが増えたり、ゆとりができたり、疑問を解決したりすることが増えてくること

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

企画・開発　株式会社リード
〒028-6104
岩手県二戸市米沢字家ノ上３９-１
http://hot-anshin.com//index.php

お問い合わせはこちら
アルファアテンド株式会社
TEL　070-5550-1982
FAX　042-673-2076
alfha.attend@gmail.com

も事実です。しかし、自らの実践を通して習得したものと、研修などで学んだ新しい知識や技術などを重ね合わせてみることで、ズレを確かめたり、方向性を確認したりすることができます。

研修で得た学びをもとに、自分の保育観や技術などを磨き、常にアップデートしておくことは、子どもたちの健やかな成長や保護者との信頼関係に必ずつながります。そして少しだけ時間はかかりますが、子どもたちの未来を、明るく希望あるものに導いてくれるのです。幼児教育・保育という私たちの営みは、まさしく日本の未来を切り拓いているのです。

子どもたちと共に生活する全てのみなさんが、幼児教育・保育という営みがどれほど素晴らしく、尊く、そしてまた責任とやりがいのある仕事であるかを自覚し、誇りと喜びをもって子どもたちと充実した毎日を過ごして下さることを心から願ってやみません。

●「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」の作成について

幼児教育・保育に携わる保育者一人一人が自らその役割の重要性とやりがいを自覚し、生涯を通じて主体的に学び続けていくことは大変重要であり、そのことが幼児教育・保育の質向上につながると考えます。

そこで、当機構では、保育者一人一人が目指したい保育者像をイメージしながら、それぞれのキャリアステージに応じてどのような資質・能力を身に付けていきたいかを主体的に考えるための一つのモデルとして「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」を作成し、示すことにしました。

「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」をあくまでも一つのモデルとして示した理由としては、保育者が身に付けたい資質・能力は一律に定めるべきものではなく、各園や各保育者によって異なる場合があると考えたからです。

また、キャリアステージを「フレッシュ」「ミドル」「ミドルリーダー」「リーダー」「園長」としました。これは必ずしも経験年数によって区切られたものではありませんが、身に付けたい資質・能力は、キャリアステージが進むにつれて変わっていくと考えます。例えば、フレッシュからミドルにかけては、自分自身のスキルを向上させることが主になりますが、ミドルリーダーは周りの保育者の力量形成のために、自分がすべき役割を果たすといった資質・能力が加わると考えられます。さらにリーダーは、園での活動を保護者や園関係者に説明ができるような資質・能力が必要になり、園長は園全体の質向上や地域社会への発信等について、園の長として総合的に判断しリーダーシップを発揮するといった資質・能力が必要となるでしょう。

保育者一人一人がこのようなキャリアステージを意識して、自身の資質・能力を確認したり、これからどのような資質・能力を身に付けていくべきかを考えたり、研修俯瞰図を参考にしながら主体的に研修を積み重ね、成長し続けていくことを期待しています。

【保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ】

全日私幼研究機構ホームページ
https://youchien.com/

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken　フレーベル館　JAKUETS
ひかりのくに　世界文化ワンダー販売　Child チャイルド本社

機構からのお知らせ

当機構ホームページリニューアルについて

園長先生方は特に実感されていると思いますが、園見学の保護者の多くが園のホームページを見られて訪れているのではないでしょうか。ホームページは園の広告塔の役割を果たしているという表現は決してオーバーなものではありません。私たちも商品などの情報を得たいときは、まずはその商品を出している企業のホームページを検索します。ホームページの果たす役割は、時代と共に大きなものになっています。

そこで昨年より、当機構の顔となるホームページのリニューアルに取り掛かりました。調査広報委員会の中のワーキングチームで骨格をつくり、小委員で意見を集約しながら作業を進めてきました。研究研修委員会、ECEQ®専門部会等のヒヤリングを経て10月のアップに向けて、作業は終盤です。使い勝手がよいホームページが最終の目標ですが、予算の関係上、できない部分も多々あります。しかし今後も検討を重ね、先生方はもとより、一般の方々にも当機構をより深く理解していただくために、ホームページのリニューアルを順次進めていきたいと考えています。

（調査広報委員長　高尾恵子）

賛助会員（園児の保護者等）入会申込書について

当機構の賛助会費の御礼として配布している「こどもがまんなかしんぶん」は子どもたちのよりよい育ちを中心にご家庭で楽しめる情報提供ツールとしてお届けさせていただきます。賛助会員の入会につきましては随時募集を行っておりますので、下記記載のURLの賛助会員入会申込書よりお申込みをお願いいたします。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

なお、途中でご加入の場合、紙媒体については、ご加入された月の号から発送をさせていただき、デジタル配信については、専用のURLより全てご覧いたたくことができますので、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

【こどもがまんなかしんぶんについて】

■会　　費：1口・年間250円

■発　　行：年10回（8・3月休刊、紙媒体6回、デジタル配信4回）

詳しくは当機構のHP（https://youchien.com/publication/pta/）にも掲載されておりますのでご覧ください。

Seagullkids

こどもの笑顔に勝る制服はない。

株式会社 矢部プロカッティング

URL:http://www.seagull-yabe.co.jp　E-MAIL:yabepro@seagull-yabe.co.jp

本社	〒241-0821	横浜市旭区二俣川 2-85-2	TEL 045-363-6871　FAX 045-361-3085
東京支店	〒179-0084	東京都練馬区氷川台 3-21-14	TEL 03-6281-0025
千葉支店	〒276-0026	千葉県八千代市下市場 1-13-8	TEL 047-481-7723
埼玉支店	〒330-0804	埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-1-1	TEL 048-640-3003
仙台支店	〒981-3131	宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103	TEL 022-218-3217
大阪支店	〒663-8104	兵庫県西宮市天道町 25-15 KIマンション 1F	TEL 079-869-6510
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東豊1F	TEL 011-712-8088
福岡営業所	〒811-0214	福岡県福岡市東区和白東 2-14-28 エクセル和白 103	TEL 092-605-5080
名古屋営業所	〒464-0083	愛知県名古屋市千種区北千種 2-3-18　1F	TEL 052-778-7272
広島営業所	〒721-0955	広島県福山市新涯町 3-27-8	TEL 084-953-8818
仙台工場	〒981-0504	宮城県東松島市小松字稔田 110	TEL 0225-82-8111
稚内工場	〒097-0001	北海道稚内市末広 5-35-1	TEL 0162-32-8111
物流センター	〒981-0504	宮城県東松島市小松字稔田 108	TEL 0225-82-8154
第二物流センター	〒721-0955	広島県福山市新涯町 3-27-8	TEL 084-953-8818

機構からのお知らせ

ゆたかなまナビのオンデマンド研修（第一期）のご案内について

処遇改善等加算Ⅱに対応したオンデマンド配信による研修を、新たに「ゆたかなまナビ」より５コンテンツ配信いたしました。

今後の新たな配信につきましては、9月・12月に配信を予定しております。詳細が分かり次第、幼稚園ナビ等を通じてご案内をさせていただきます。

なお、視聴後、レポートを提出し、合格された方には随時研修スタンプを発行しておりますので、是非、研修受講をご検討いただきますようお願い申し上げます。

【講習名／講師】

１．（子ども理解シリーズ）
保育と子どものダイバーシティ（多様性）
講師：戸田有一（大阪教育大学教授）

２．（教材研究シリーズ）
乳幼児期における音楽遊びの実際
講師：出原大（むぎの穂保育園園長）

３．（教材研究シリーズ）
０・１・２歳児の遊びと表現～素材と向きあう～
講師：和泉誠（株式会社なーと代表）

４．（保育環境シリーズ）
乳幼児のための音環境
講師：嶋田容子（同志社大学赤ちゃん学研究センター特任研究員）

５．（保育環境シリーズ）
園庭づくり（文部科学省マネジメント分野該当）
講師：小倉寛庸（愛泉幼稚園園長）、
田中康雄（光明幼稚園園長）、
中丸創（かえで幼稚園副園長）、
丸谷雄輔（札幌ゆたか幼稚園園長）

【申　込　期　間】　令和５年６月20日(火)10：00～令和６年２月28日(水)17：00
【動画視聴期間】　令和５年６月20日(火)10：00～令和６年２月29日(木)17：00
【3択5問回答期間】　令和５年６月20日(火)10：00～令和６年２月29日(木)17：00
【申　込　方　法】　幼稚園ナビより、申込を随時受付中でございます。
なお、お申し込み後のキャンセルや返金等は出来かねますのでご了承下さい。
ご不明な点等ございましたら当機構までご連絡下さい。

オンデマンド研修コンテンツのご案内

当機構では、既に過去に配信されたオンデマンド研修も引き続き配信をしております。現在、最新の研修を含め、多くのコンテンツを配信しておりますので是非ご活用ください。詳細は、幼稚園ナビに掲載されておりますのでご確認いただきますようお願い申し上げます。

なお、オンデマンド研修の申込に関するお問い合わせ・ご質問等は下記メールアドレスに「氏名・園名・研修会名」を記載の上、お問い合わせをお願い申し上げます。順次回答のご連絡をさせていただきます。

【オンデマンド研修に関するお問い合わせ先】
一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構事務室
メールアドレス：info@youchien-kikou.com

●編集責任者：高尾恵子　●発行者：一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
●〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館1階　TEL 03-6272-9232　FAX 03-6272-8363